

## 23. 果皮の紅が濃く、食味が良好なカンキツ新品種「津之輝」の特性

つのかがやき

### 1. 背景とねらい

広島県の主要なカンキツ産地では、食味の良好な「はるみ」や「不知火」に更新されつつある。しかし、これらの品種においては減酸しにくいことが問題となっている。

そこで、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成された、紅が濃く食味が良好なカンキツ新品種「津之輝（つのかがやき）」の特性を明らかにする。

### 2. 成果の内容

- 1) 「津之輝」の交配組み合わせは、【 「清見」 × 「興津早生」 】 × 「アンコール」で、第9回カンキツ系統適応性・特性検定試験に系統名「口之津34号」として供試され、本県を含めた各県の試験結果をもとに2007年に種苗登録申請された。
- 2) 果実重は160～170gで、「はるみ」や「不知火」よりやや小さい（表1）。
- 3) 果形指数は126前後でやや扁平である（表1）。
- 4) じょうのう膜は薄く多汁で（データ省略）、糖度は約12° Brixである（表1）。
- 5) 酸度は、12月下旬～1月には1%前後となり、「はるみ」や「不知火」より減酸が早い（表1）。
- 6) 成熟期の果皮色は、やや赤みのある橙色である（図1, 2）。
- 7) 剥皮はやや容易で、浮き皮はほとんど発生しない（データ省略）。
- 8) 以上の結果から、「津之輝」は、果皮の紅が濃く、食味が良好で、12月下旬以降に出荷可能なカンキツ品種として有望である。

### 3. 利用上の留意点

- 1) 果頂部にヘソを生じた果実は商品性が劣るので、摘果時に除去する。
- 2) 果実肥大期の過乾燥により裂果が発生することがある。
- 3) 本県および他県での栽培事例から、かいよう病にはかなり強く、そうか病にも強い。
- 4) 他県の試験例では、少加温栽培により、12月上中旬に出荷でき、果実重も250g前後となる。

（果樹研究部）

#### 4. 具体的データ

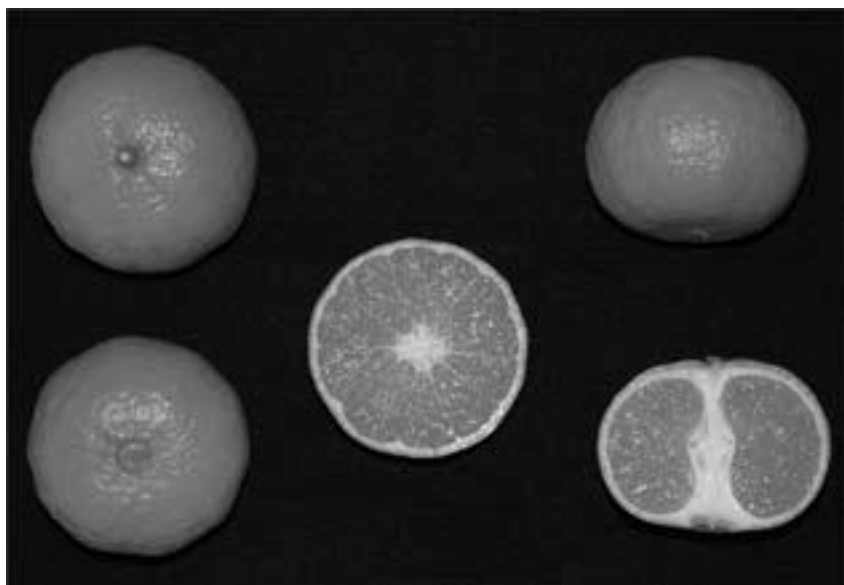


図1 「津之輝」の果実



図2 「津之輝」の着果状況

表1 「津之輝」の果実形質<sup>a)</sup>

| 品種名 | 果実重<br>(g) | 果形 <sup>b)</sup><br>指数 | 糖度<br>(°Brix) | 酸度<br>(%) | 調査時期     |
|-----|------------|------------------------|---------------|-----------|----------|
| 津之輝 | 167        | 126                    | 11.9          | 1.09      | 12月20日前後 |
| はるみ | 231        | 117                    | 11.3          | 1.28      | 12月20日前後 |
| 不知火 | 234        | 107                    | 12.9          | 1.55      | 1月中旬     |

a) 果実形質は、2004～2006年度産の平均値から算出した。

b) 果形指数は、横径÷縦径×100で算出した。